

# ハタハタ資源対策協議会資料

資料

秋田県農林水産技術センター 水産振興センター

## (1) 平成18年のハタハタ漁獲状況

表1 漁獲量及び漁獲金額の推移(水産漁港課調べ)

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計
平成3年	55.5	16.6	72.1	109,232	53,565	162,797	1,968	3,227	2,258
平成4年	37.3	—	37.3	平成4年9月～7年9月(禁漁期間)					
平成7年	53.8	88.7	142.5	196,724	239,821	436,545	3,657	2,704	3,063
平成8年	86.1	157.2	243.3	224,559	280,367	504,926	2,608	1,784	2,075
平成9年	161.1	290.8	451.9	269,968	500,542	770,510	1,676	1,721	1,705
平成10年	158.4	436.8	595.2	211,974	411,386	623,360	1,338	942	1,047
平成11年	157.6	579.1	736.7	192,519	594,968	787,487	1,222	1,027	1,069
平成12年	157.2	901.8	1,059.0	155,087	565,756	720,843	987	627	681
平成13年	451.5	986.3	1,437.8	422,572	638,461	1,061,033	936	647	738
平成14年	471.8	1,570.1	2,041.9	307,990	530,312	838,302	653	338	411
平成15年	956.1	2,058.6	3,014.7	480,713	608,158	1,088,871	503	295	361
平成16年	779.9	2,348.7	3,128.6	331,755	678,022	1,009,777	425	289	323
平成17年	488.6	1,866.6	2,355.2	248,165	555,949	804,114	508	298	341
平成18年	958.9	1,640.2	2,599.1	377,507	458,605	836,112	394	280	322
H18/H3	17.28	98.81	36.05	3.46	8.56	5.14	0.20	0.09	0.14
H18/H17	1.96	0.88	1.10	1.52	0.82	1.04	0.78	0.94	0.94

※沖合は暦年、沿岸は漁期データ。

表2 漁獲可能量と漁獲実績の推移(水産漁港課調べ)

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成7年	85	53.3	62.8	85	88.7	104.4	170	142.0	83.6
平成8年	110	81.3	73.9	110	157.2	142.9	220	238.5	108.4
平成9年	180	153.3	85.1	180	290.8	161.6	360	444.1	123.3
平成10年	300	178.5	59.5	300	436.8	145.6	600	615.3	102.6
平成11年	400	143.0	35.7	600	579.1	96.5	1,000	722.1	72.2
平成12年	400	260.3	65.1	600	901.8	150.3	1,000	1,162.1	116.2
平成13年	520	547.8	105.3	780	986.3	126.4	1,300	1,534.1	118.0
平成14年	680	384.5	56.5	1,020	1,570.1	153.9	1,700	1,954.6	115.0
平成15年	960	903.9	94.2	1,440	2,058.6	143.0	2,400	2,915.4	121.5
平成16年	1,000	787.9	73.3	1,500	2,348.7	156.6	2,500	3,081.5	123.3
平成17年	1,000	488.2	48.8	1,500	1,866.6	124.4	2,500	2,354.8	94.2
平成18年	800	904.2	113.0	1,200	1,640.2	136.7	2,000	2,544.4	127.2

※平成10年以降は管理漁期(9～翌6月)データ。今漁期の沖合の達成率は12月末時点。

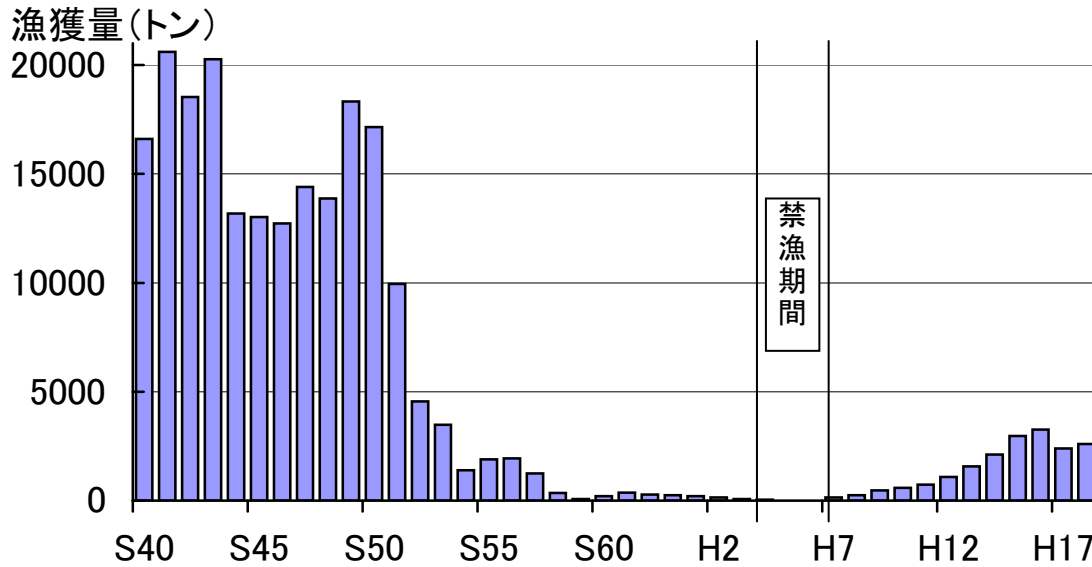


図1 秋田県のハタハタ漁獲量の推移

※17年以前は農林水産統計漁獲量、18年は水産漁港課調べ  
 ・禁漁とその後の資源管理によって、一時の低迷期は脱したが、近年頭打ち傾向がみられる。

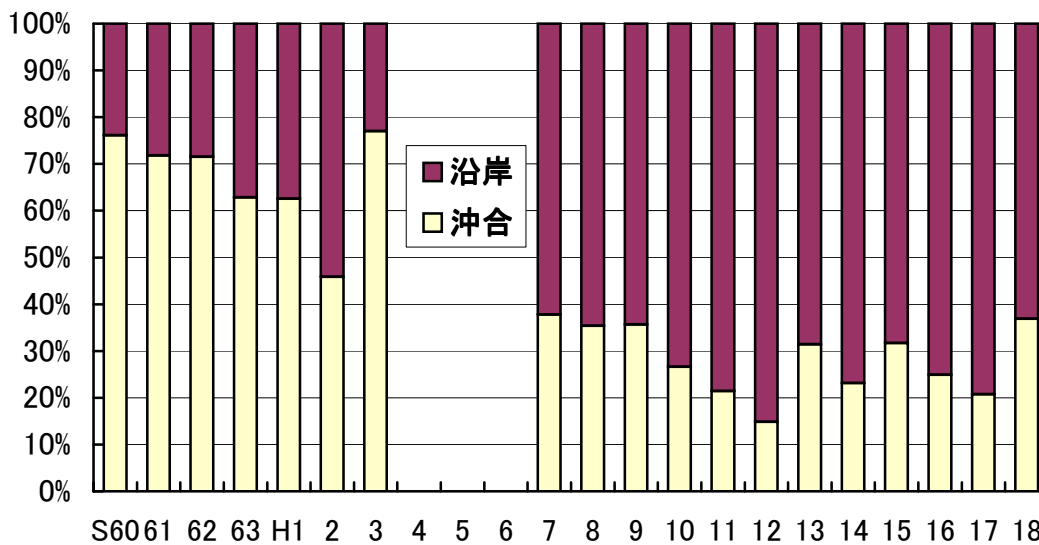


図2 沖合・沿岸別漁獲割合の推移

・沖合の割合が36.9%で、解禁以降では平成7年(37.8%)に次ぐ割合となった。

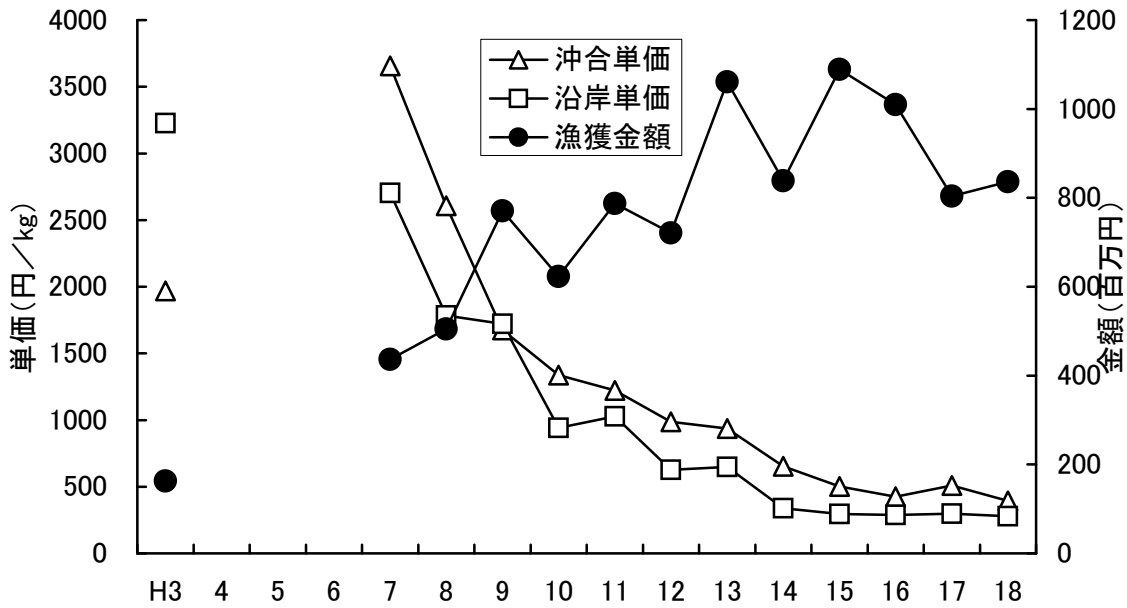


図3 ハタハタの単価と金額の推移

- ・漁獲金額は、8～10億円前後で推移している。
- ・近年の単価は、沖合で400～500円、沿岸で200～300円と、ほぼ横這いである。

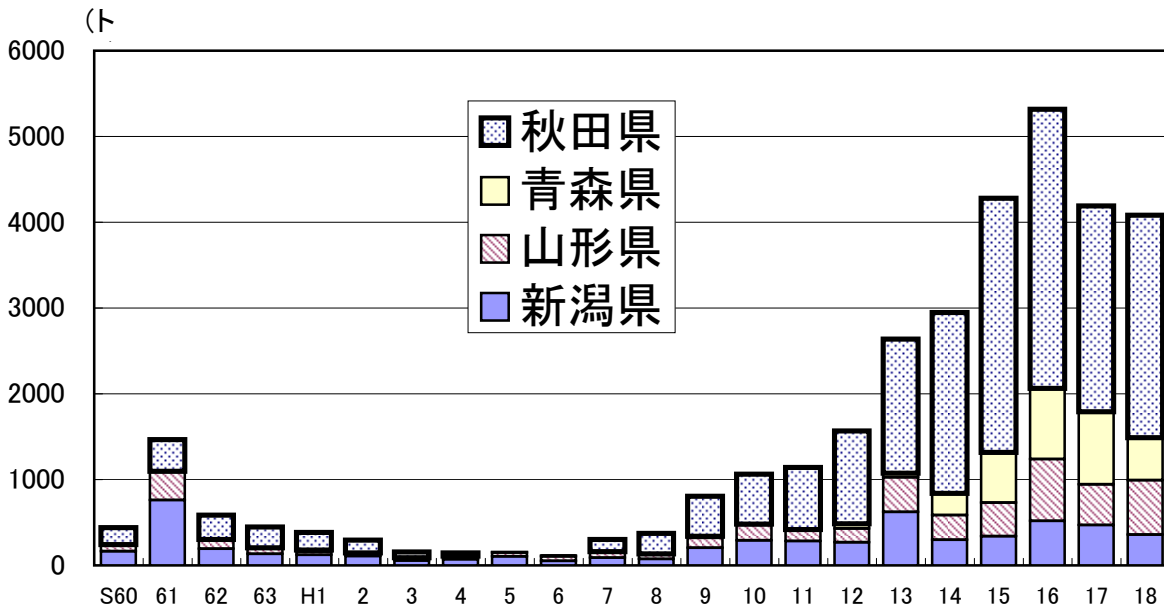


図4 日本海北部4県漁獲量の推移

- ・4県の合計は4000トン台を維持している。
- ・秋田県の割合は63.7%で、前年(57.3%)よりも6.4ポイント増加した。
- ・県別には青森492トン(前年比58.3%)、山形632トン(133.2%)、新潟359トン(76.5%)と、青森及び新潟県の減少が大きい。

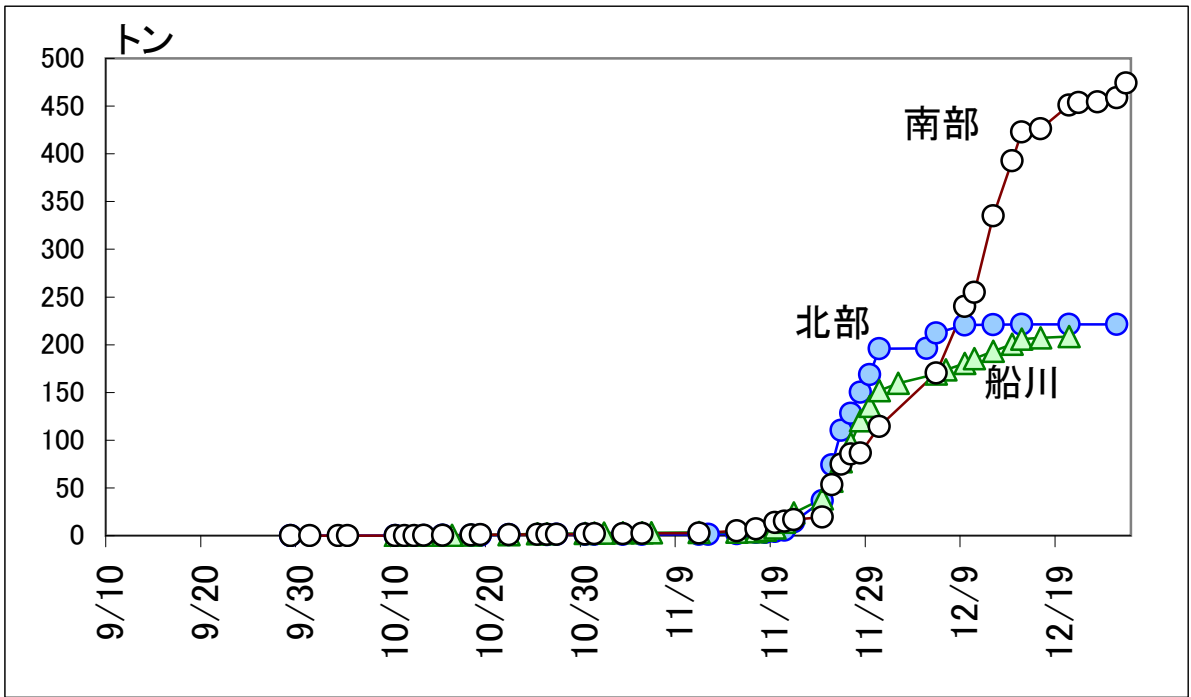


図5 沖合地区別漁獲量の推移(累計)

- ・解禁日は9月10日であったが、初水揚げは9月29日であった。
- ・初水揚げ後も低迷が続いたが、11月下旬からは一転し、戸賀沖及び南部海域で漁場が形成され、連日の大漁となった。

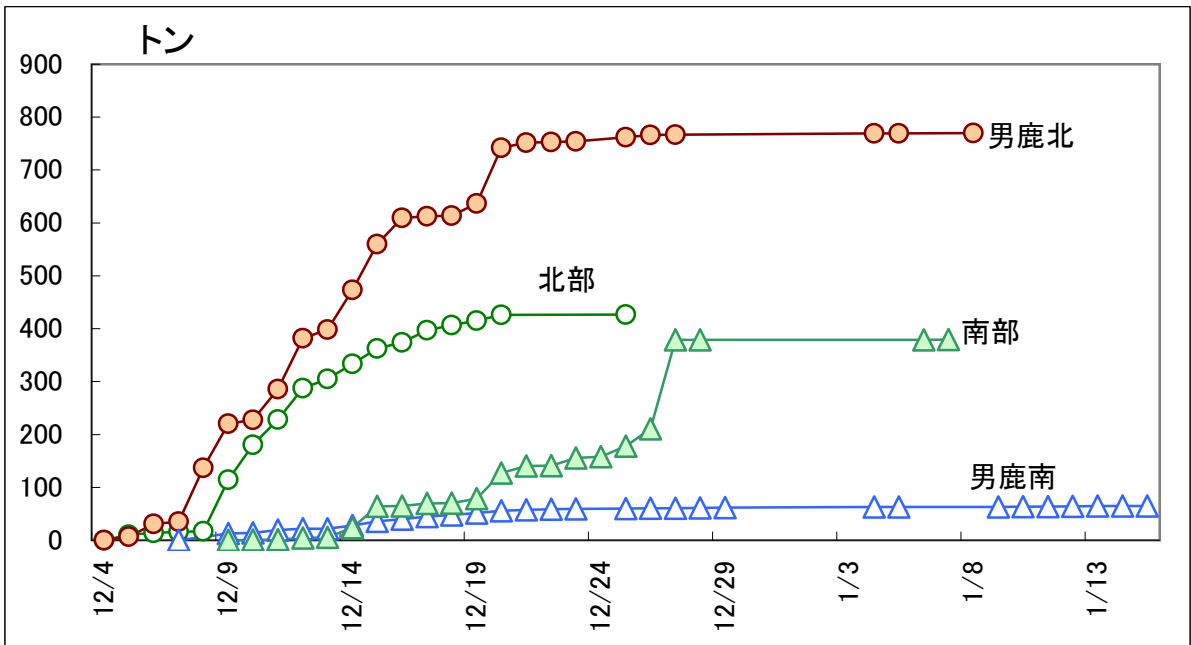


図6 沿岸日別漁獲量の推移(累計)

- ・初漁は12月4日(北浦及び八森)であった(H17:12/1)。
- ・漁獲が本格化(1万箱以上/日)したのは、男鹿北で12月8日、北部で12月9日、南部で12月14日からと、近年の中では遅かった。

## (2) ハタハタ資源調査結果

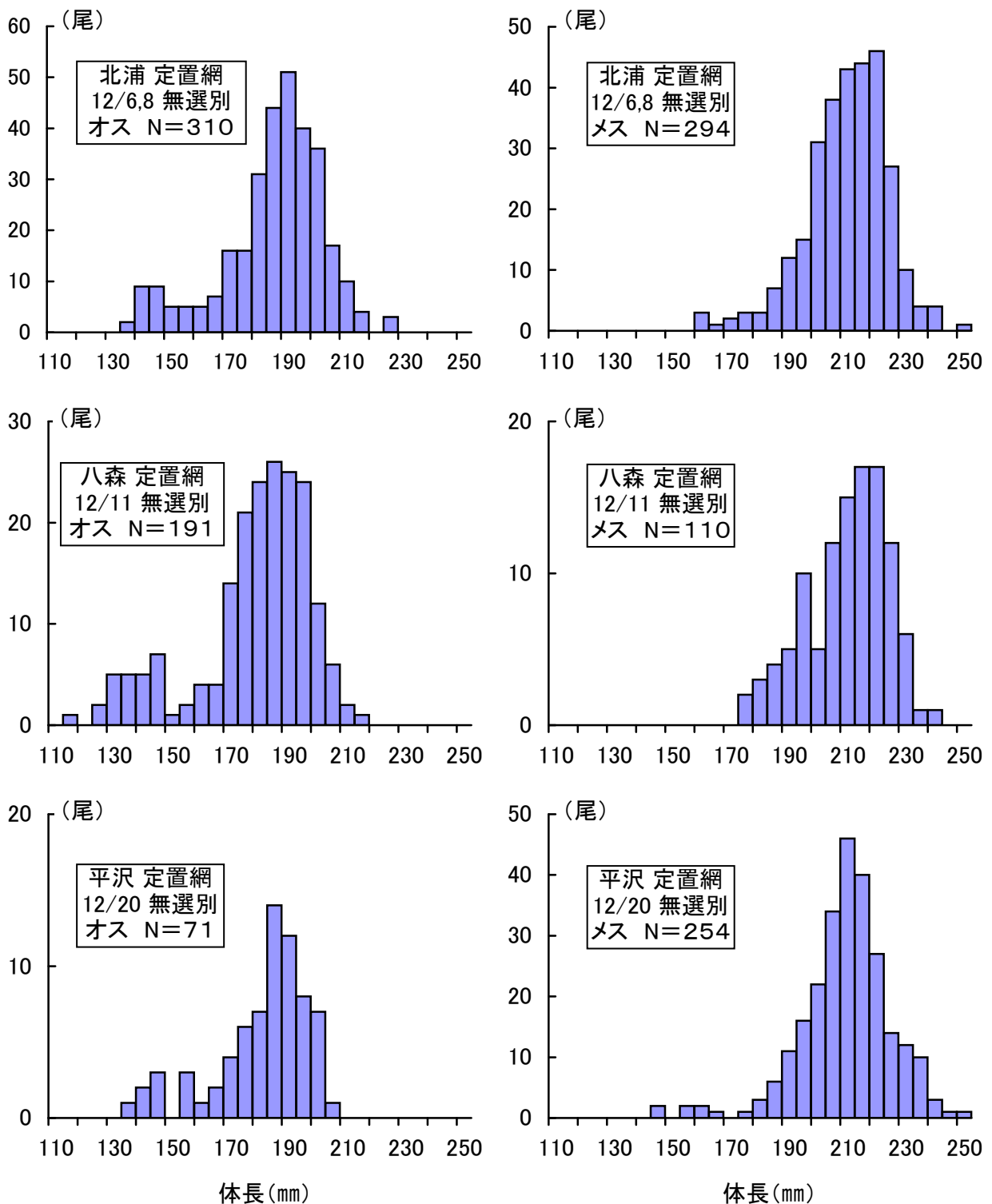


図7 沿岸の体長組成

- ・漁獲の主体は4歳魚(15年生まれ、オス19cm前後、メス22cm前後)であった。
- ・2歳魚(17年生まれ、オス14cm前後、メス15cm前後)の割合が、非常に低かった。

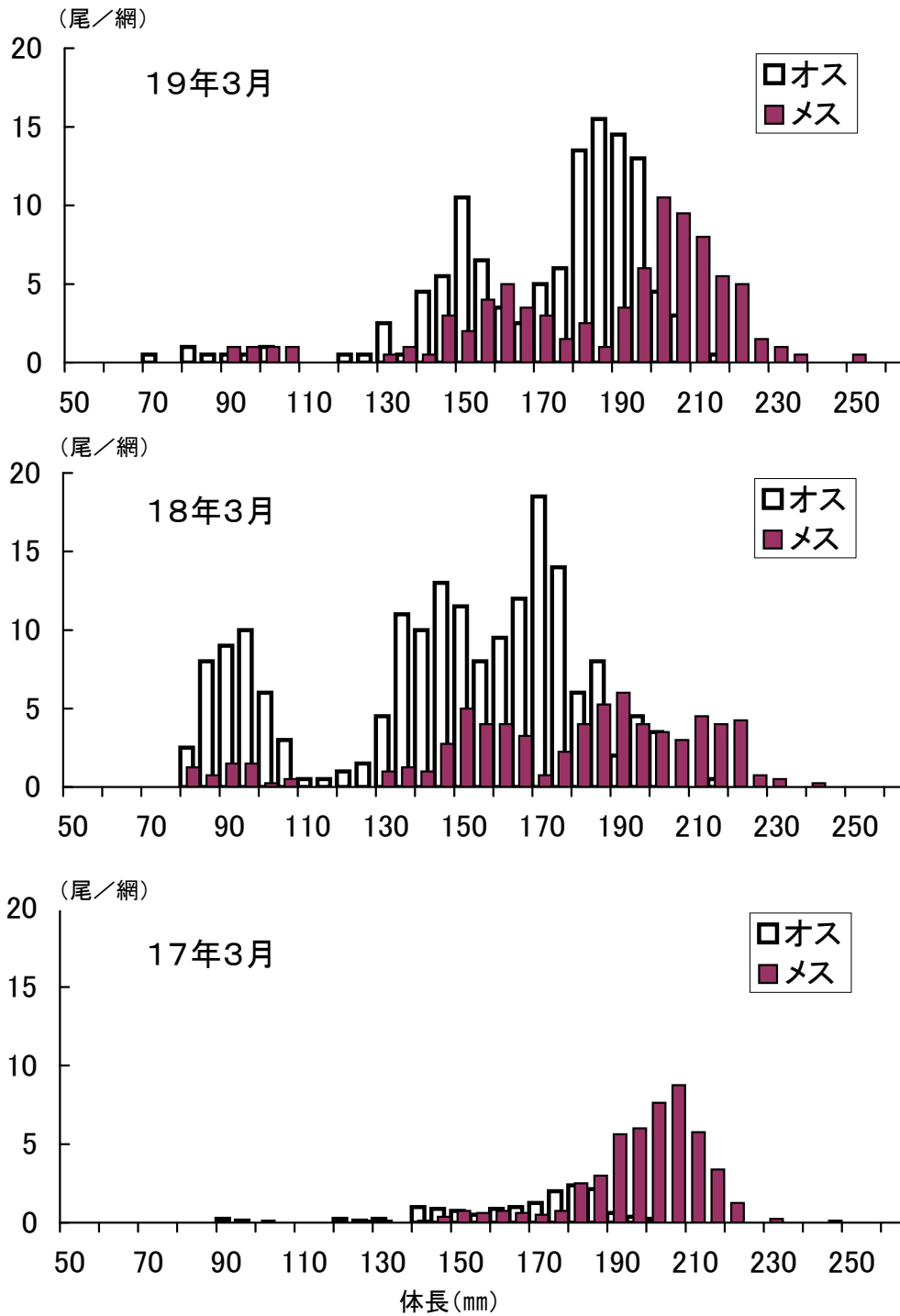


図8 3月の千秋丸試験操業結果(1操業当たり体長組成)

- ・ 昨年12月と比べると、メスで体長22cm以上の高齢魚の割合が低下している。
- ・ 体長7～11cmの18年生まれが加入しており、今後、その動向が注目される。

表3 ハタハタ卵塊密度(個/m2)の推移

地区	定点	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
岩館	St. 1						26.9	27.0	11.9	173.8	14.7	75.6	14.9	7.2
	St. 2	9.7	1.2	7.6	7.6	1.5	12.6	4.1	21.1	231.8	39.4	41.3		27.5
八森	St. 1(雄島)	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.3	0.0	0.1	8.2	0.0			
	St. 2(ニッ森)	1.7	0.2	1.3			0.1	0.1	0.8	12.9	0.5	36.7	20.4	3.7
	St. 3(瀨脇)				27.4	39.7	15.7	3.2	25.9	116.8	25.3	23.0	97.9	67.8
	St.4(滝ノ間)								53.2	192.8	112.8			
能代	St. 1(南防波堤)		0.0	0.5		0.0	0.0							
	St. 2(発電所取水口)		0.0	3.5	0.0	0.0	12.3	0.0						
	St. 4(北防波堤)		0.0	0.9	6.0	0.0	6.6	0.0						
北浦	相川St. 1	1.5	0.6	2.0	10.2	2.2		1.6	0.2	91.9	0.0			
	相川St. 2	2.1	0.6	1.7	6.6	4.4	5.5	2.4	0.1	9.7	25.4	2.2	3.2	2.8
	相川St. 3		1.8											
	相川St. 4		2.3									16.7		
	八斗崎St. 1(0.5m)	1.0	1.4	2.0	0.6	5.3	0.1	8.6	0.0	19.7	9.9	13.3	2.9	4.5
	八斗崎St. 2(1.5~2m)	0.1	0.6	3.1	6.3	3.9	1.7	1.1	0.2	12.6	70.1		0.5	0.7
	八斗崎St. 3(2m)								7.7					
	八斗崎St. 4(3m)								17.2	57.2		41.1		
	八斗崎St. 5(4m)								13.0		87.7		8.2	4.2
	八斗崎St. 6(6.5m)									21.6				
野村		0.0	0.5	0.0	0.0	1.8	1.6	5.9	0.0	2.1	11.3	7.2	13.6	10.7
湯の尻	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9	16.3	1.8	2.1	6.1
	St. 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.5	8.9	4.5	26.2	20.6	10.0	2.9
戸賀	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.8	6.6	0.1	26.8
	St. 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	49.9	24.4	3.2	258.7
	St. 3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	5.3	1.4	8.6	3.8
台島	St. 1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	0.0		11.6	0.6	0.0	
	St. 2							0.5						
船川	備蓄St. 1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	1.4					
	備蓄St. 2						1.2	120.0	56.5	3.0	17.7	62.5	61.6	46.6
	金川St. 1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0		0.5	0.1	0.0	2.0
	金川St. 2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0		16.8	1.7	0.0	3.2
平沢	St. 1	2.2	0.1	0.3	0.0	9.0	1.7	3.6	19.1	7.6	68.9		6.5	4.5
	St. 2(鈴分港)	0.5	1.5	1.1	9.0	10.4	16.8	44.0	30.6	34.9	69.8	210.4	51.5	102.5
									13.3					
金浦	St. 1	0.8		1.1	4.3	0.0	0.0	60.0	0.6					
	St. 2(飛分港沖側防波堤)						8.0	57.0	1.3					
象潟	St. 1(小洞分港)						21.2	1.5	0.0					
	St. 2						27.0							

- ・北部地区では、比較的高い卵塊密度であった。
- ・北浦地区では、野村や湯の尻で比較的高密度であったが、八斗崎では低密度であった。
- ・戸賀地区では高密度の卵塊が確認され、特にst.2では過去最高の値となった。
- ・船川地区では、比較的高い卵塊密度であった。
- ・南部地区では、平沢st.2で高密度の卵塊が確認された。